

第 2 部

基本構想

第1章 村の将来像

いきいきと輝き、お互いの心がふれあい助け合うことによって住み良い下條村となるよう、むらづくりの合言葉として、次のシンボルテーマを掲げます。

『自然と伝統 人が織り成す 下條村』

そして、この将来像の達成へ向けた5つの理念と振興方向をまとめました。

むらづくりの理念と振興方向

下條らしさを生かした活力あるむらづくり

風土を守り安心安全なむらづくり

参画連携の自律したむらづくり

伝統と共にいつまでも健やかでいられるむらづくり

自然と共存した持続可能なむらづくり

第2章 人口の動向と将来

第1節 人口の動向と将来

本村の令和2年国勢調査人口は3,545人であり、平成27年より306人減少しています。

これは、いままでに行った分譲地や村営住宅の整備が完了し、土地、建物取得の補助や移住定住施策などを実施しましたが自然減の影響が大きかったことが要因となっています。

また、5歳階級別人口ピラミッドを見ると、いわゆる逆三角形に近い形であり、特に20歳～39歳の階級が少なくなっており、子育て世代や今後の将来を担う世代の減少が深刻な状況と言えます。

今後の人口予測として、令和2年の改定人口ビジョンでは、令和2年には3,733人、令和7年には3,658人と現在の人口より減少はするも今までの住民基本台帳によるデータや今後の施策を行うことで、令和12年(2030年)には緩やかな減少に留め3,585人で推移すると予測されていますが、実際は予測を上回って人口減少が進行しており、令和6年4月1時点で3,454人となっています。今後もこの傾向は続くと予想されます。

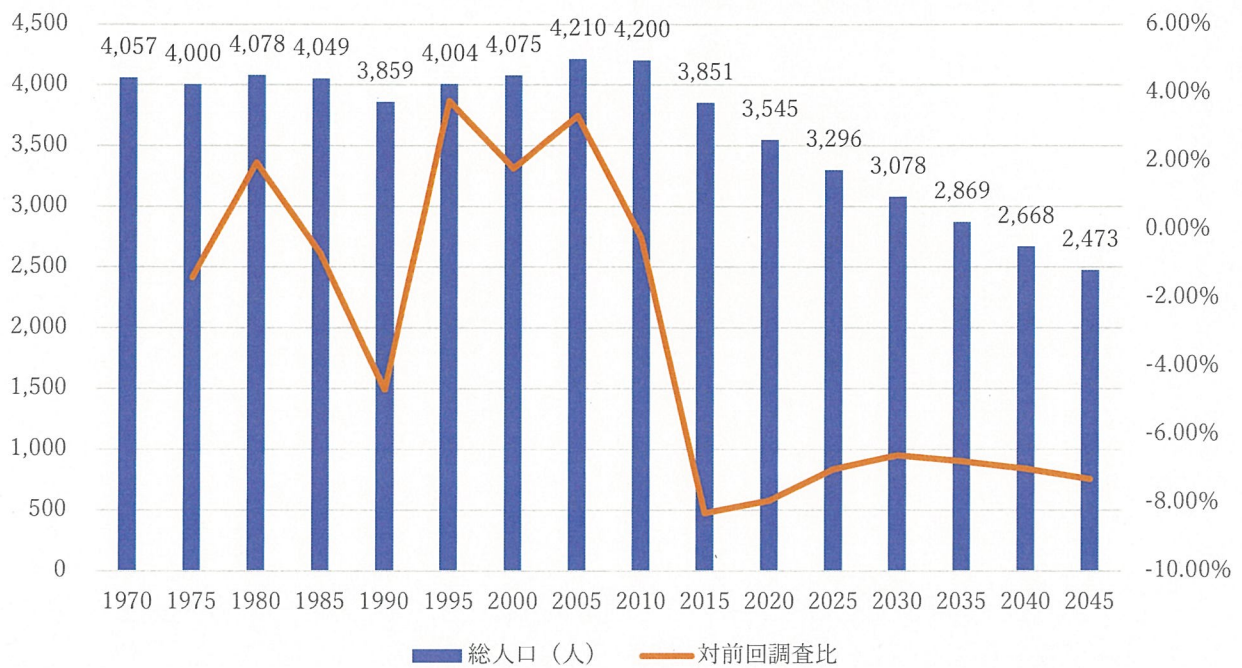
1. 人口の規模と産業のあり方

表1 人口及び世帯数の推移

	S. 35	S. 40	S. 45	S. 50	S. 55	S. 60	H. 2	H. 7	H. 12	H. 17	H. 22	H. 27	R. 2
世帯数(戸)	1,056	1,025	1,008	992	990	991	983	1,028	1,086	1,158	1,189	1,154	1,160
人口(人)	5,106	4,563	4,057	4,000	4,078	4,049	3,859	4,004	4,075	4,210	4,200	3,856	3,545

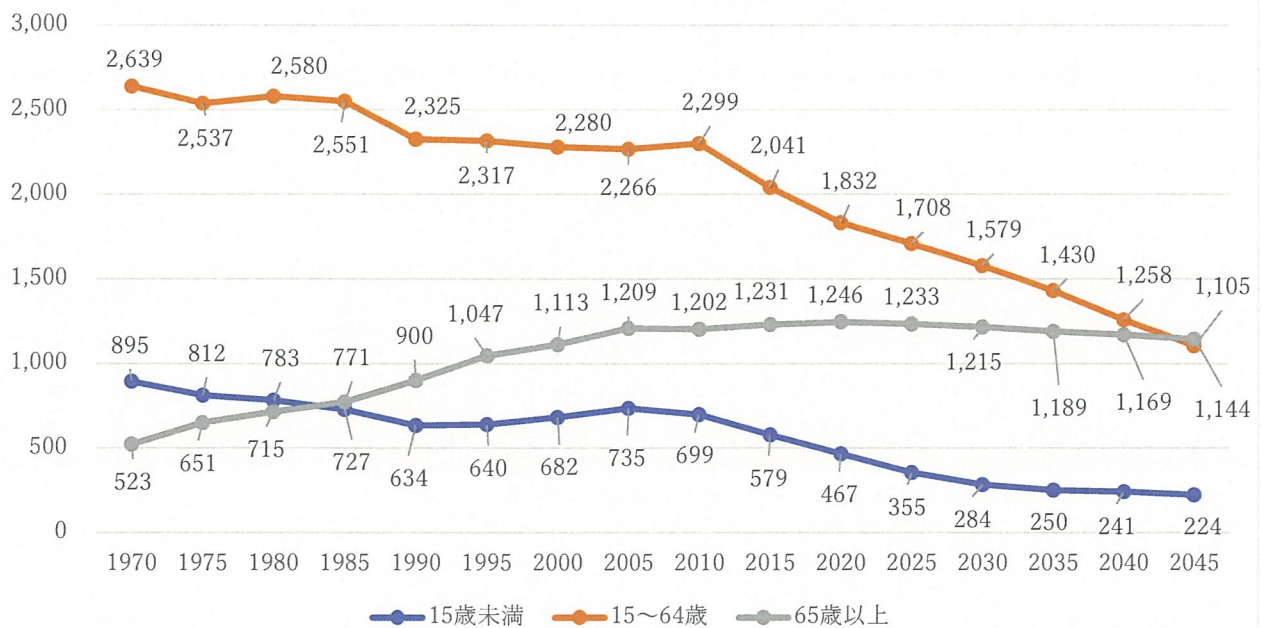
資料) S35～H27年:下伊那郡市要覧、R2年:国勢調査を利用

図1 人口推移（実績：1970～2020年、将来2025～2045年）



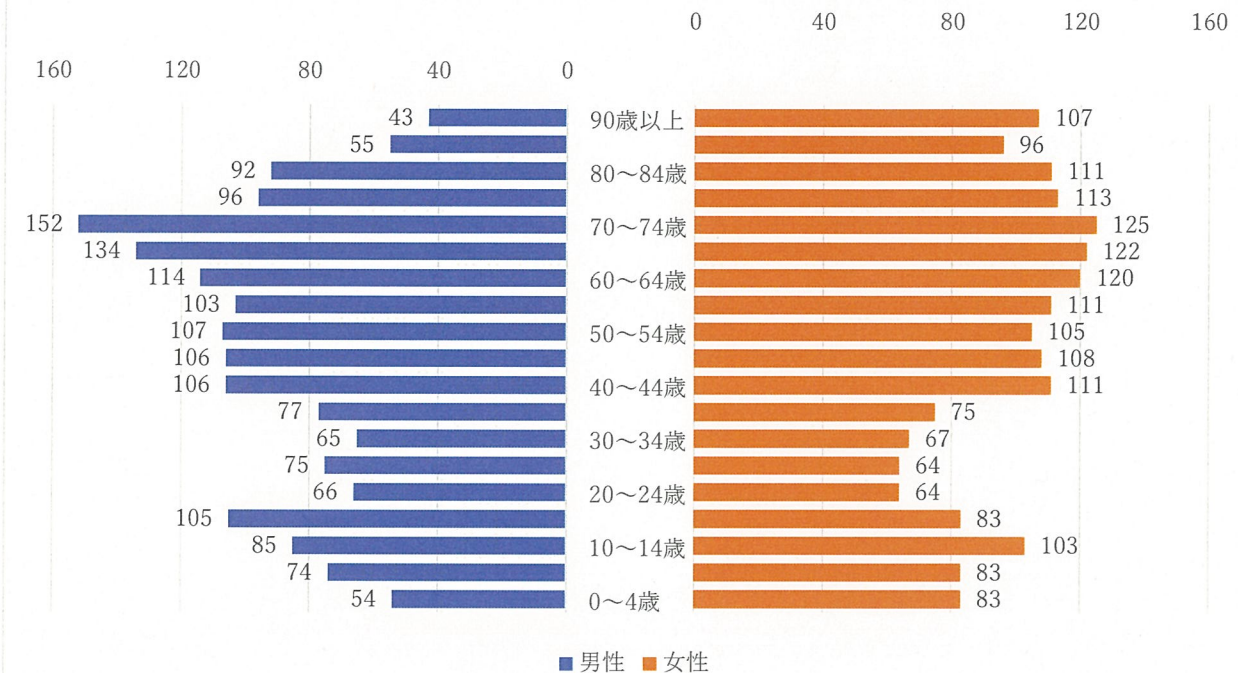
資料)1970～2020年:国勢調査実数、2025～2045年:国立社会保障・人口問題研究所『日本の市区町村別将来推計人口』(令和5(2023)年推計)を利用

図2 年齢3区分による人口推計



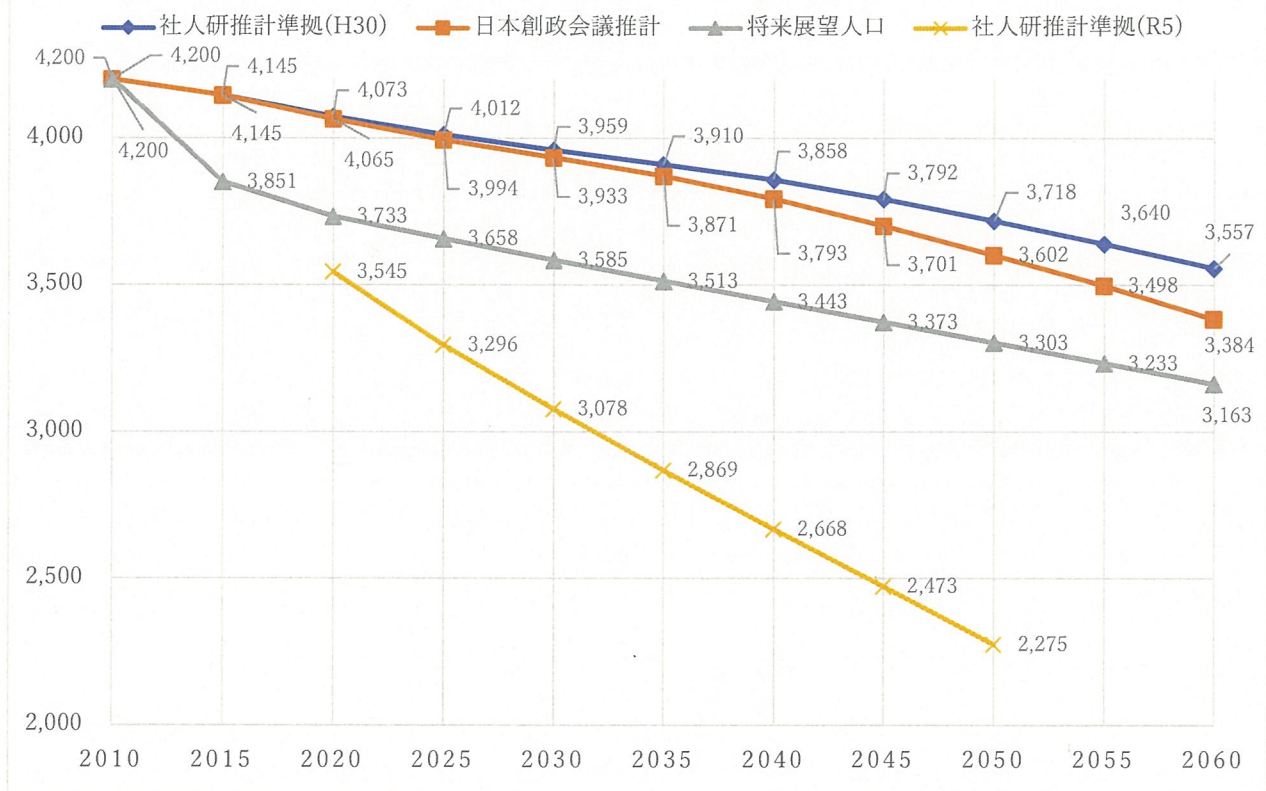
資料)1970～2020年:国勢調査実数、2025～2045年:国立社会保障・人口問題研究所『日本の市区町村別将来推計人口』(令和5(2023)年推計)を利用

図3 人口ピラミッド（2020年）



資料)国勢調査を利用

図4 （参考）推計パターン別に見た
総人口の推移



第2節 産業構造の動向と将来

1. 就業人口の推移

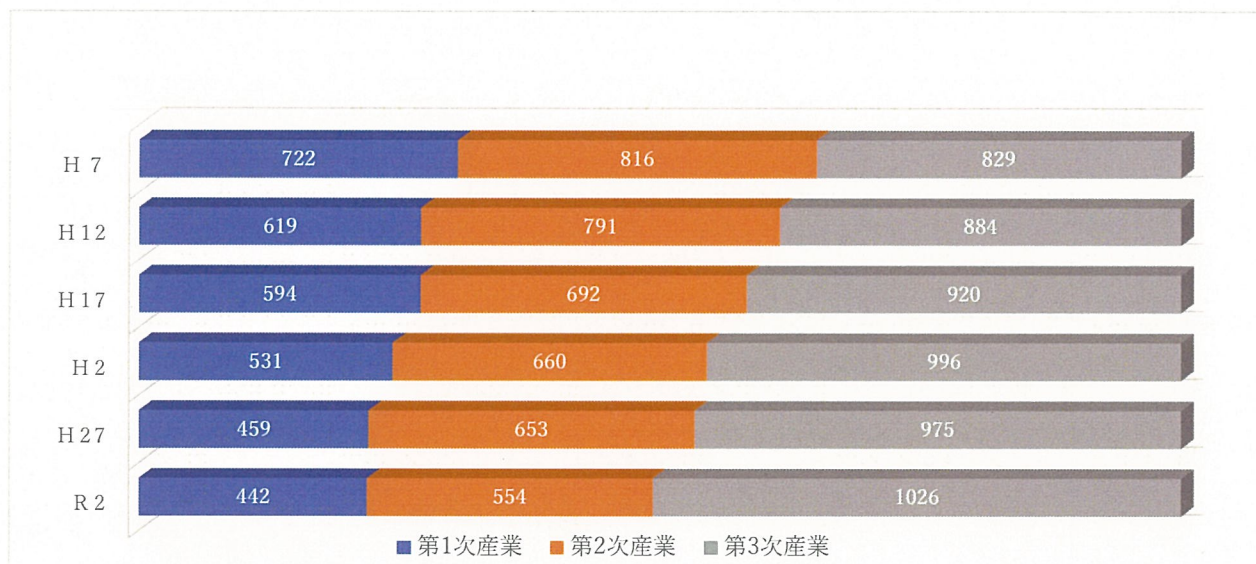
現在の就業人口割合は、平成12年から比較してみると、第1次産業で5.1%減、第2次産業も7.1%の減、第3次産業は12.2%増加しており、第1・2次産業の割合が減少し、第3次産業が50%を超すように増加傾向にあります。

また、就業人口についても、第1次産業は、平成12年から177人減り、第2次産業も237人減っていますが、第3次産業は142人増加しています。全体では2,294人から272人減って2,022人となり、就業者は年々減少傾向にあります。

表2 産業別就業人口の推移

	H. 12		H. 17		H. 22		H. 27		R. 2	
	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)
第1次産業	619	27.0%	594	26.9%	531	24.3%	459	22.0%	442	21.9%
第2次産業	791	34.5%	692	31.4%	660	30.2%	653	31.3%	554	27.4%
第3次産業	884	38.5%	920	41.7%	996	45.5%	975	46.7%	1,026	50.7%
計	2,294	100.0%	2,206	100.0%	2,187	100.0%	2,087	100.0%	2,022	100.0%

資料:国勢調査



2. 就業人口の予測

平成27年と令和2年の国勢調査を比較すると、第1次産業は、農林業従事者の減少により0.1%落ちましたが減少率は緩やかとなり、第2次産業においては製造業の減少により3.9%の減少に転じました。その一方、第3次産業においては4.0%増加しました。今後も農業・林業の高齢化による担い手不足はますます深刻になるものの、SDGs等で改めて見直されていることから第1次産業の減少は緩やかになるものと思われます。また、第2次産業については公共事業が減る建設業や物価高騰の影響を受けやすい製造業など村の主要産業において就業人数の伸びは難しいと見込みます。第3次産業は、近年の全体の割合からすると増加傾向ですが、就業人口については、ある程度横ばいで推移すると予想されます。

第3章 振興の方向(計画の理念)

第1節 下條らしさを生かした活力あるむらづくり

下條村は、総面積 38.12 m²、周囲 30.06km と狭く、標高差は 496m と急峻です。この地形を生かした事業を行うことで、有効的な土地利用が可能となります。

また、散在する 34 集落各々で、歴史を踏まえ特色を生かした行事や事業も活発に行われています。今後もこの機運を高め、主体的な地域づくりを後押ししていけるような事業を精査し執行する村づくりを進めます。

さらに、今後リニア中央新幹線や三遠南信自動車の整備が進むにつれて、道の駅を中心としたエリアに観光拠点施設の整備を検討するなど、起業しやすい地域づくりとさらなる交流関係人口の増加や雇用の確保に繋がる持続可能な村づくりを進めていきます。

第2節 風土を守り安心安全なむらづくり

村では、防災・減災事業や情報通信、環境基盤整備を行ったことにより、村内の地域格差は解消されました。さらに、デジタル防災行政無線や音声告知システムの更新、情報配信プラットフォームの導入により、有事の際に全村民への伝達手段が可能となりました。今後も加速する情報社会を見据えた事業執行や活用、高齢化社会に対応した各施設の利便性向上や改修事業、近年当たり前となっているゲリラ豪雨やいつ起きても不思議ではない大規模地震などの自然災害から生命および財産を守る予防施策が必要とされています。また、道路網においてもさらに身近な路線の改良・改修や、交通量の増加に伴う2次改良を行うことにより、生活格差の解消が図られる事業を行っていきます。

第3節 参画連携の自律したむらづくり

近年、めまぐるしく変化する地域経済は、先行きが見えず不透明です。国の施策によっては今後さらに景気の悪化や物価の高騰が続く可能性があります。このような状況の中で、村民一人一人が共通の危機感を持ちあらゆる角度からお互いに助け合い、新しい意見やユニークな発想を持って柔軟に地域課題を解決するような取り組みや、地域が一体となって盛り上がっていきけるような活動を通じて、地域や村に対する愛着が生まれるよう、住民が主役のむらづくりを推進します。

第4節 伝統と共にいつまでも健やかでいられるむらづくり

感染症の流行や少子高齢化の進行により、地域の健康福祉を取り巻く環境が大きく変化しているなかで、村民一人一人が健康や福祉に対する理解を深め、思いやりと助け合いの心を育むために、引き続き GHV (グッド・ヘルス・ビレッジ) 事業など総合的な地域力の向上を図ることが必要です。

今後も地域の健康福祉拠点である、いきいきらんど下條を活用して健康増進や介護予防等の各種事業に取り組みます。また、デジタルや ICT 教育を取り入れた教育の推進や社会教育の充実を図ることにより、年齢に関係なく健康でいきいきとした村づくりを進めます。

第5節 自然と共存した持続可能なむらづくり

21 世紀の地球全体の課題として、SDGs を踏まえた自然環境の保全、資源の有効活用、公害防止などの環境問題が挙げられます。自然豊かな下條村を持続できるよう自然エネルギーの活用や GX を推進するとともに、今後も公害発生の防止、乱開発の抑制、リサイクル等、村民全体に周知・浸透を図り意識の向上を進める取り組みを行っていきます。